中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」に関する意見

令和８年１０月３０日
国　立　大　学　協　会

国立大学及び国立大学協会は、これまで我が国の高等教育と学術研究を強力にリードするとともに、高等学校教育との適切な連携体制の構築と改善においても主導的な役割を果たしてきた。特に、各国立大学の入学者選抜の設計及び実施に関しては、大学入学者選抜は高等学校における教育と大学における教育を接続する教育の一環として実施するものとの認識の下、国立大学協会として主体的に関与している。今般示された教育課程企画特別部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（以下「審議まとめ」という。）を踏まえ、高等学校教育と大学教育の円滑な接続、および自らの人生と未来社会を創造する人材育成の観点から、国立大学協会としての意見を申し述べる。

改訂の基本的方向性について

生成 AI をはじめとする先端技術が急速に普及する社会において、単なる知識の集積を超え、個別の知識・技能が相互に関連付けられ一般化された知識・技能の総合的な理解と、複雑な課題の解決に向けて個別の思考力・判断力・表現力等の組み合わせ等による総合的な発揮が両立する「自らの人生を舵取りする力と民主的で持続可能な社会の創り手」の育成を目指すことに賛同する。本協会「わが国の将来を担う国立大学の新たな将来像」（令和７年３月）においても人材育成の更なる高度化を掲げており、社会における「知の総和」の維持及び増大を目指し、初等中等教育と高等教育との接続を意識しながら、次代を担う人材を一体となって育成していくことが重要である。

その実現に向け、①主体的・対話的で深い学びの実装、②多様性の包摂、③実現可能性の確保の３つの観点を基盤として改革を進めることにも異論はない。ただし、①と②の実現・両立が容易なことではない中で、教育課程実施に伴う教員の負担にも十分に配慮しながら、各学校における教育の質の向上と児童生徒の主体的な学びの充実に結び付けられるよう、必要な環境整備と支援を伴って着実に具体化されることを期待する。

「審議まとめ」の具体的記述について

（１）情報活用能力の抜本的向上と大学教育における学びとの円滑な接続

小学校「情報の領域」、中学校「情報・技術科」の創設や高等学校「情報科」の高度化は、AI 時代に必須である。現在、国立大学では全学生を対象とする数理・データサイエンス・AI 教育が普及しつつあり、初等・中等教育段階において情報技術の「活用」「適切な取扱い」「特性の理解」の３要素が一体的に培われることは、大学での高度な学びに繋がる不可欠な基盤となる。一方、国語や数学といった基礎的な教科から得られる「読む」「書く」「計算する」といった能力はあら

ゆる知識や技能の習得に必須であり、十分な時間数を確保することも欠かせない。よって、限られた時間数の中で情報活用能力と基礎学力を獲得できる教科横断的な授業を組み立てることのできる教員の質の向上と養成が求められる。国が先頭に立って教員研修の充実や教材開発の推進を図るなど、指導体制整備の一層の強化を期待するとともに、教員養成課程を有する国立大学においても協働していく。

（２）高等学校教育の質保証と基礎学力の確保（教科構成および単位数）

高等学校教育における新単位（17 単位時間＝1 単位）の導入や減単・組替えの柔軟化が進む中でも、高等学校教育の根幹である基礎学力の担保は欠かせない。大学進学後に求められる確かな学力や、「総合的な探究の時間」で修得すべき資質・能力が希薄化しないよう、必履修科目の科目数・単位数および各教科で涵養すべき資質・能力の着実な定着を保証されたい。

（３）アドミッションポリシーに基づく多様な入学者選抜における入学志願者の評価

国立大学では、総合型選抜や学校推薦型選抜の拡大等、入学志願者の能力等を多面的・総合的に評価する多様な入学者選抜を実施している。義務教育段階での「調整授業時数制度」や「マイ探究」等探究活動の実施、高校現場での柔軟な教育課程編成が可能となることで、生徒個々人の主体的探究や意欲的取り組みが促進され、培われる能力や学習成果も更に多様なものとなることが考えられる。これら取組をはじめとして総合的に育成される「思考力・判断力・表現力等」を高等学校自体がどのような基準で評価しているかがより明確となれば、各大学・学部等がそれぞれのアドミッションポリシーに基づき入学者選抜を実施する上での参考となり、更に良好な高大接続が構築されるものと考える。

また、多様な入学者選抜の中で、これら取組みを通じて培われた高校生の能力と学習成果が適切に評価されるよう、実施に向けたスケジュール等も含め、新たな学習指導要領等に関する情報ができるだけ早期に大学関係者に提供されることを希望する。

（４）高大連携の緊密化と現場への重層的支援

高等学校のカリキュラムで充実する探究学習の深化に向け、国立大学としても出前授業やオープンキャンパス、教員向け研修の提供等を通じて高校現場と協働し、地域の高大連携を強力に支援・強化していく努力を継続する。一方で、高校教員・大学教員ともに、連携を進めるためには人材・予算等の資源が必要であるため、国としての支援の拡充にもご配慮いただきたい。

終わりに

全国の国立大学において、先進的な入学者選抜の取組が進展している現状を踏まえ、国立大学協会としては、こうした多様かつ先進的な入学者選抜に適切に対応できるよう、選抜の公正性と妥当性を担保する実効性あるルール作りを引き続き主体的に進めていく予定である。

次期学習指導要領の改訂によって「深い学び」を経て育成された高い資質・能力と主体的な学びの意欲を持つ若者を、国立大学が誇る質の高い高等教育と先端研究を通じてさらに大きく伸ばし、我が国および国際社会の将来を担う人材として社会へ送り出す所存である。今後の具体的な学習指導要領等の策定や運用の検討にあたっては、大学関係者との緊密な協議・連携が重層的に図られることを強く希望する。

以　上